

# 「東京 VR コンテンツ FES 2017」が開催

神谷 直亮

「VR コンテンツの祭典」を謳った「東京 VR コンテンツ FES 2017」が、7月29日にお茶の水学園（東京・千代田区）で開催された。招待されたので出向いてみたら、13のVR関連企業が出展し、VRプロフェッショナルアカデミー第1期生の作品が17件紹介されていた。

企業展示で目立ったのは、VAQSO、カディンチェ (Kadinche)、積木製作、クリーク&リバー (Creek & River)、シータ、Littlestar Japan、アイロック (IROC)、インタラクティブブレインズ、ネストビジュアル (Nest + Visual) である。

VAQSO (未知の未来に向かって“爆走”するイメージが社名) は、VR映像に匂いを同期させるユニークなデモで注目を集めた。匂いを発するデバイスは、スナックバーの「スニッカーズ」とほぼ同じサイズで、重量は50グラムである。促されるままにこのデバイスをヘッドマウントディスプレイ (HMD) Oculus Rift に装着し、Oculus Touch ハンドコントローラーで実際にコーヒーカップやチョコレートをピックアップした瞬間、実物そっくりの香りを感じることができた。発売予定を聞いてみたら、2018年春との回答であった。

VRを活用したトータルマーケティングソリューションを展開するカディンチェは、6月3日に茨城県「つくばカピオ」で開催

された「Innovation World Festa 2017 (イノフェス)」の模様と昨年の「イノフェス」で話題になった小室哲哉のライブアーカイブ映像を再生して注目的になった。撮影は、パナソニック製の360度4Kライブカメラシステムとブラックマジックデザインの4Kカメラに魚眼レンズを装着して行ったという。VRコンテンツの試遊に使われたHMDは、Oculus Gear VRであった。

建築系のCG制作とVRコンテンツ制作を手掛ける積木製作は、清水建設が制作した「シミズ・ドリーム」と名付けた3本のコンテンツをマイクロソフトのホロレンズで体験させていた。「Ocean Spiral」というコンテンツをトライさせてもらったら、透明なレンズ部に深海未来都市のホログラム映像が出現し、人間との新しい繋がりが分かりやすく示されていた。「Green Float」では、海上に高さ1000メートルもありそうなツリー状の建造物が出現し、夢のような世界を満喫できた。

クリーク&リバーは、同社が誇る「アイディアレンズK2+」を使う試遊デモを行っていた。パソコンやスマホにケーブルで接続しないスタンドアロン型デバイスとして完成しているのが特色である。AMOLEDディスプレイによる2.5Kクラスの高解像度を実現しているのも強みである。試遊させてもらったコンテンツは「恋愛体験」と

いうタイトルで、若い女性にバーでカクテルを作ってもらって、仲良く一緒に飲むというVRシーンが再現された。同社のリストには、この他に「呪刻列車」「Virtual Breaker」「蚊ぱっちゃん」など、12種のコンテンツが載っていたが時間がなくトライできなかった。

シータ (θ) は、珍しいPICOテクノロジーズ製HMDを使って「透明少女」というタイトルのVRコンテンツを再生して見せていた。PICO HMDは、中国製とのことであった。

アメリカのLittle Star MediaのVRと360度コンテンツ配信プラットフォーム「Littlestar」の日本版を展開するLittlestar Japan (業務提携先: ソニー・ミュージックエンタテインメント) は、3本のコンテンツの試遊を促していた。最も迫力があるという「Rocket Launch 360」をHTC製のHMD VIVEを装着して視聴させてもらったら、巨大な「デルタ4ヘビーロケット」の打ち上げシーンが再現され見応えがあった。他の2本は時間がなくて視聴できなかったが、「エイリアン・コヴェナント! 胎内」「ASTEROIDS!」というタイトルがついていた。

ドライブシミュレーターの販売を手掛けるアイロック (IROC) は、ロビーに「T3R Simulator」を設置して、来場者に「プロドライバーレベルの体験ができる」と試乗を促していた。トライする時間がなかったが、非常に高精度な加工を施したシミュレーターで、赤色に仕上げたボディも素晴らしかった。HMDには、Oculus Gear VRを採用していた。

実写VR映像制作のプロ集団を自認するインタラクティブブレインズは、Kinematic VRソリューションズを活用したサービス「VRounge」のデモで注目を集めた。また、コンテンツとテクノロジーの融合を目指すネストビジュアル (Nest +



写真1 VAQSO社は、VR映像に匂いを同期させるユニークなデモで注目を集めた。



写真2 クリーク&リバー社は、スタンドアロン型「アイディアレンズK2+」を出展し、AMOLEDディスプレイによる2.5Kクラスの高解像度を実現していた。

Visual) は、同社がホロレンズ用に制作したというデジタルコンテンツ「イノセントフォレスト」を披露した。

VR プロフェッショナルアカデミー第1期生 17 名によるコンテンツの傑作は、佐藤聖の「乗馬 VR」であった。HMD に HTC VIVE を使って、実際に手綱を駆使して乗馬をしているかのような臨場感を満喫させるのが特色と言える。その他、手軽なハコスコを使って試遊できるコンテンツ、音声認識を付加価値にした VR コンテンツ、気配を伝える VR コンテンツなど非常にバラエティに富み、かつ豊かな発想が感じられるものが揃っていた。

上述した「東京 VR コンテンツ FES 2017」から戻って、今年の VR の動向を改めて振り返ってみた。

まず、4 月に開催された「2017 NAB ショー」では、VR カメラの競演が見られた。フラウンホッフ HHI 社の「OmniCam360」、ノキアの「OZO+」、中国インスタ社の「360 PRO」「360 Nano」「360 Air」、ビデオ・ステッチ社の「Orah 4i」、リコーの「RICOH R」、GoPro の「OMNI」など数えきれないくらい多彩な製品が揃っていた。

VR 中継車も 2 台出展されており話題を呼んだ。1 台は、オール・モバイル・ビデオの子会社 VRLIVE 社が出展したもので、車上にはノキアの VR カメラ「OZO」が、車内には朋栄のビデオスイッチャー「HVS-390HS」が搭載されていた。もう 1 台は、TV プロギアがインテル社向けに制作した「True VR」と呼ばれる VR 中継車で、3 月に開催されたバスケットボールの全米大学ナンバーワンを決める NCAA トーナメントの決勝戦を撮影した VR 映像で注目的になった。

次いで、5 月に行われた「BroadcastAsia 2017」では、パナソニック、Ideal



写真3 クリーク&リバー社は、「呪刻列車」「Virtual Breaker」「蚊ばっちゃん」など、12種のVRコンテンツを再現して見せていた。

System、Wasp3D の 3 社が VR/AR を前面に押し出して出展した。

パナソニックは、360 度ライブカメラシステム「AW-360C10/AW-360B10」を大々的に紹介して注目を集めた。臨場感のある 4K 映像をリアルタイムに中継できるのが特色である。

シンガポールの Ideal System は、香港の PCCW グローバルと組んで 4 月初めに制作・配信した「香港ラグビーセブン」(7 人制国際ラグビー大会) の 360 度 VR 映像を披露していた。ノキアの OZO を 3 台使って制作した珍しい 2K x 2K 3D 映像である。

インドの Wasp3D 社は、同社特有のエンド・ツー・エンド・リアルタイム・グラフィック・プロダクション・ワークフローを駆使して制作した AR のデモを実施した。埋め込まれている人物が、豪華な宮廷ロビーのあちらこちらに次々に出現するというコンテンツであった。

さらに、日本では、NHK 技術研究所(技研)が 5 月末に行った技研公開で、世界最小 8.3 インチの 8K 有機 EL ディスプレイを用いた VR システムの試作品を紹介した。15K x 30K の超高解像度で撮影した全天周の静止画から、ユーザーの視線方向の画像をリアルタイムで切

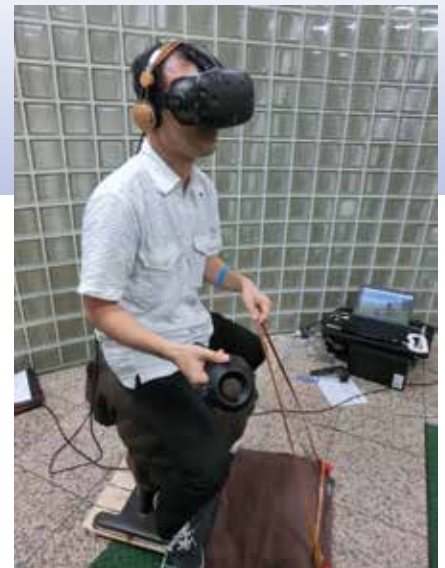


写真4 VR プロフェッショナルアカデミー第1期生 17 名によるコンテンツの傑作は、佐藤聖の「乗馬 VR」であった。(HMD は、HTC 製の VIVE)

り出して表示できるシステムである。コンテンツは、4K デジカメで JAXA の筑波宇宙センター内を撮影した静止画像で、8 台のカメラを駆使して全天周を撮影したという。ディスプレイでの再現画像は右目も左目も 4K を実現しており画期的であった。

また、第 3 回「先端コンテンツテクノロジー展」が、6 月末に東京ビッグサイトで開催され、パナソニックが、220 度の広視野角、4K レベルの解像度を誇る HMD の試作品を出展して注目的になった。今後の HMD の傾向としては、高視野角、高解像度、一体型に移行していくものと思われる。

**Naokira Kamiya**  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

**SWE DISH**

緊急報道  
ハイビジョン映像伝送  
Ku-band/X-band

**CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り**  
**120cmφ型**

**衛星通信用超小型可搬アンテナ**

Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース  
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

**エーティコミュニケーションズ株式会社**

<http://www.bizeat.jp> TEL : 03-5772-9125

Communications k.k.